

大規模小売店舗から発生する騒音予測の手引き等の改定・修正について

平成 20 年 1 1 月
経済産業省流通政策課

○大規模小売店舗から発生する騒音予測の手引き（第 2 版）

1. 自動車走行騒音を予測する際の考え方を ASJ Model 1998 から最新の ASJ RTN-Model 2003 に変更した。
注 1：ASJ Model 1998 から ASJ RTN-Model 2003 への変更において、適用範囲の拡大、予測計算方法の精緻化、予測精度の向上などが行なわれたが、大規模小売店舗における自動車走行騒音の予測方法に関して特段の変更点はない。
2. 上記の変更と連動して、自動車走行騒音の予測の際のパワーレベルの計算例として掲載した自動車工学に基づく方法の記載の位置づけを変更し、新たに ASJ RTN-Model 2003 の計算式（減速走行に用いる乗用車の計算式）を用いた数値も記載した。
注 2：引き続き、自動車工学に基づいたパワーレベル式を用いることも可能である。
3. 用語の変更を行なった。
 - ・回折減衰チャートを回折計算チャートに変更した。
 - ・ L_{Amax} を $L_{A,Fmax}$ に変更した。（騒音レベルの最大値に関して、時間重み特性 S の最大値 $L_{A,Smax}$ と、時間重み特性 F の最大値 $L_{A,Fmax}$ を区別する。）
4. 自動二輪及び原動機付自転車の騒音予測の考え方を示した。
 - ・ASJ RTN-Model 2003 の小型貨物車の数値で代用できる旨を記載した。
5. 実測値及びメーカー値を使用する際の留意点を記載した。
 - ・測定方法、実測データを用いる際の留意点、測定データの整理、メーカー値を用いる際の留意点（基準の距離の扱い等）などを記載した。
6. 指針で示されていない騒音源の取り扱いについて言及した。
 - ・指針に示されていない騒音についても必要に応じて予測する旨を記載した。
7. 事象をより正確に表現するため、「回折効果」を「回折に伴う減衰」という表現に変更した。同様に「地表面効果による補正量」を「地表面効果による減衰に関する補正量」と変更した。

○大規模小売店舗から発生する騒音予測の手引き（第2版）参考資料編

1. 旧参考資料「1. 騒音対策の検討例」を「大規模小売店舗における騒音対策（平成15年6月）」に置き換え、店舗事例（写真等）も添付した。また、参考文献リストを見直した。

注1：旧資料を発展させ詳細化したものが「大規模小売店舗における騒音対策」であり、今回の手引き等の見直しに際し、記載内容の重複を解消することを目的として参考資料内に統合することとした。

注2：「手引き参考資料編」において、旧資料の表番号及び図番号は新しく付与している。
2. 指針の記述に合わせて「荷捌き」を「荷さばき」に修正した。
3. 騒音源対策における「スピーカの適正配置」が示す内容は、スピーカの小型化による配置箇所の分散化を示すものであることから、スピーカの検討は騒音源対策であることを明確に示すために「スピーカの小型化」という表記に変更した。
4. 旧参考資料2. 「継続時間を1時間延長した場合の等価騒音レベルの変化（試算）について」を「大規模小売店舗の変更時の騒音の予測方法」に置き換えた。

注3：既存店舗の変更時の対応について、旧資料では1時間だけ時間延長した場合の変化を紹介したが、今回の変更では増設（増床）の場合と時間延長の場合の双方について、試算例を紹介している。
5. 「駐車場出入り口における騒音等予測の考え方について」を参考資料3として追加した。
6. 簡易予測法の例として「駐車場内を走行する自動車からの L_{Aeq} 簡易予測の考え方について」を参考資料4として追加した。
7. 参考資料3、参考資料4の新規挿入に伴い、旧参考資料3「台車の走行実験について」、旧参考資料4「店舗における騒音測定調査について」の順番を繰り下げた。

○騒音の予測に係るケーススタディ

1. 文字化け箇所等の修正
2. 計算ミス、記載ミスの修正

※ケーススタディについては、予測のために使用するデータを測定した時期が平成12年度時点で旧指針・手引きを用いて実施したものであるため、ケーススタディ自身の内容の改定は行っていない。